

【第一回 居場所づくりの報告】

日野原重明記念新老人〈滋賀の会〉事務局 中井美幸

演題[自然と人と健康、その2]

日時：2019年11月23日(土) 11:00~14:30

講師：松下唯夫先生

場所：近江八幡市加茂町 3590-6 モア 3F

自然一砂漠の地域、草原の地域、低温、外部から遠く隔てられた奥地昔からの固有の生活者、首都に集まって来る生活者など一自然環境の違い~過酷な自然環境は短命と述べ、人の健康と食が健康に関与すると、さらに養生訓、貝原益見の夫婦像を語り、養生訓が日野原重明文庫の湖側から4つ目の2段目に有ります。益見の夫婦仲が良いことが大切で、手にとると、先生がお読みになられ、線が引いてあり、また、折り込んであります、機会があれば手にとって見て下さい。

人が健康になるために一人で引っ込んでいては健康になれません。人と出逢い、温かい、優しい言葉かけをすると笑顔が生まれ、その笑顔から、さらに元気になるエネルギーを言葉かけた人は貰う、日野原先生は優しい、為になる言葉かけをされて、エネルギーを更に頂かれたのだと思います。高島市 115 歳の女性の健康は畑で働くことだった…と他に幾つかの事例をあげて語られました。

最後にサプライズ、モンゴルのゼグミドの絵画、朝明け方、ゲルのテントから流れる朝食の煙の絵が、「自分の家を開放して、語り合う場所を提供する人はめったに有りません。」と小林さんにプレゼントされました。

ゼグミドは大学教授に拾われモンゴルの文化庁の長官になり、ヨーロッパ、アメリカで高く評価されています。社会主義共産国モンゴルに神の存在を絵画にて表現する美術大学教授、文化庁の長官になった、と、ゼグミドのビデオ(NHK 制作)を紹介されました。モンゴル人は韓国、中国人よりも日本人によく似てると、子どもたちの笑顔の写真を紹介し、幼児期にみられる蒙古斑にふれた。

最後に、話を聞いた後、会食をともにし、親しく会話をすることが健康になる秘訣と述べ、参加者に一言づつ発言を求め、参加者は各々の健康について和やかに語り、小林さん家族の手作り焼そばと蛸の味噌汁の美味しさを味わい、ゲスト持参の柿と寺村さん持参のアップルパイ、…デザートを味わうことができました。今回、脳血管障害の後遺症の家族、その世話を世話をされている人が5人あり、春からは、体育教師の松下先生は運動を御指導下さると約束を頂き、閉会となりました。松下先生は、此で、安心して雪山に入れると再開を約束して下さいました。

【新入会員のご紹介】

松下唯夫様 末神とよみ様 中村英美様 梶田多恵子様 千田素子様

以上、5名の方が新しくご入会くださいました。心より入会を歓迎させていただきます。

「新しい友との出逢い どんなに齢をとってからでも」 日野原重明先生の呼びかけがこたえます。

【忘年会のお知らせ】

日時：2019年12月26日(木) 11:30~15:00 場所：近江八幡市加茂町 3590-6 モア 3F

会費：5000円 申込先 090-9287-8906【中井美幸】 申込期日 2019年12月20日

【サークル活動】

サークル名	場所	12月	1月	2月
コーラス さざなみ	彦根東公民館	12/5 12/19 (X'ms) 13:00~15:00	1/16 1/30 13:00~15:00	2/6 2/20 13:00~15:00
歴史探訪	近江西国霊場 6番 生源寺と宿坊		1/23 京阪坂本駅 10:00 集合	
居場所づくり	近江八幡市加茂 モア 3F	毎第3月曜日 新しくはじめました。	10時30分~ 講座などのほか催し計画 中です。	13:30 昼食と歓談あります。

編集後記：今回、講演会開催にあたり、全国から、県内から・・・、ご支援を沢山いただきました。湖西線も運休することなく、滋慶学園のお茶席おもてなし、本を手にとれば、日野原重明先生が線を引かれた跡もあり、日野原先生ご自身に出会えたとの喜びの声もあちこちに聞こえてきました〔事務局〕

日野原重明記念新老人

「滋賀の会」



会報 55号  
2019年  
講演会特集号

日野原重明記念新老人〈滋賀の会〉世話人代表 嘉田由紀子



【巻頭語】

「日野原重明記念新老人〈滋賀の会〉」の第2回目講演会を10月13日に大津市の琵琶湖畔で開催することができました。台風19号の影響で交通が乱れる中、全国から100名以上の方がお集まり下さいました。感謝申し上げます。今回は、特別に日野原重明さんの仕事と暮らしを20年近く支えてこられた日野原真紀さんにご講演いただきました。また滋賀県理事の角野文彦医師の講演や大阪外国語大学名誉教授の松下唯夫さんからの講演は日野原イズムを発展させる大変刺激的な内容となりました。詳しくは下記の堤さんからの報告をご覧ください。実はこの日は講演会場の「湖邸滋びわこクラブ」に「日野原重明文庫」がオープンしました。書斎など、最後の時を過ごされた部屋が再現され著作もたくさん集められ日野原イズムを学ばせていただく事ができます。琵琶湖の風景とともに楽しみいただけます。どうぞお出かけ下さいませ。

「講演会を振り返って」

日野原重明記念新老人〈滋賀の会〉総務 堤威智正

去る令和元年10月13日(日) 滋慶学園湖邸滋びわこクラブにて、開催させていただきました。大型の台風19号が前日12日来襲する中の開催でした。実は、私はこの開催に反対でした。わざわざお越しいただいて事故でもあったらどうしよう、出席者が減ってしまうと考えたからです。最終的に、当初の計画通り実施することになりました。前年の「滋賀の会」講演会も台風で延期された経緯もあったからです。でも、この超大型台風が、関東方面を直撃しているそのさなかにもかかわらず、遠路から思いもよらない多くの方々のご出席をいただきました。

まず、日野原重明文庫の部屋(膨大な蔵書と、先生が使っておられた備品類の展示)の見学と、今回講師をお願い致しました日野原真紀様は、わざわざ10月11日にきていただき、日野原様の姪御様にあたる、水口 緑様は当日、東京から駆けつけていただきました。また、ライフプランニングセンター・石清水様より全国にお声をかけていただきましたので、金沢・大分・広島・松本・鹿児島・松江・兵庫・大阪などからもお越し頂き、県内50名総勢130名のご出席を得て、盛況理に開催させていただくことができました。湖西線が運休中、ご出席頂いた方々に感謝の気持ちでいっぱいです。嘉田代表に開会のあいさつをいただき、ご講演は、日野原真紀様の日野原重明先生の90歳から105歳までの生きざま、考え方、私生活まで楽しくご説明いただきました。次に、滋賀県健康医療福祉部理事、角野文彦様の「なぜ、滋賀が長寿に日本一になったのか? その2」前回の「滋賀の会」講演会に引き続いてご講演をいただきました。その後、大阪外大名誉教授、松下唯夫様の「自然と人と健康」の講演でしたが、先生は日本とモンゴル交流協会の会長をされており、モンゴル人の生活の話が印象に残りました。日野原重明先生作詞・作曲の「新老人の歌」と、嘉田代表が「琵琶湖周航の歌」のその歴史について説明があり、一番から六番まで全員で、合唱し閉会。

第二部、懇親会は、130名中51名の出席をいただき、出席頂いた各支部の現状などについて発表を頂き、松本の大沢利充様の発案で、全員「故郷」を合唱しお開きとなりました。皆様のご参加、ご協力に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、私は来年で80歳になります。日野原先生から見れば、まだ子どものようなものです。今後とも、先生の教えを勉強させていただき、県内の人々にどのように伝えていっていかをしっかりと考えて、行動したいと思っております。諸先輩各位今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。末神様の名司会が会場を盛り上げていただき、光りました。皆様、ありがとうございました。

日野原重明文庫公開記念講演会の開催に寄せて  
滋賀県知事 三日月大造メッセージ



日野原重明記念新老人「滋賀の会」滋賀支部日野原重明文庫公開記念講演会のご盛会を心よりお喜び申し上げます。

さて、今年度、滋賀県では「変わる滋賀 続く幸せ」を基本理念とする、新たな基本構想をスタートさせました。

私たちの暮らしを取り巻く様々な変化や一人ひとりの価値観、生活スタイルの多様化が進む中において、誰もが尊重され、自分らしく生きることができる「未来へと幸せが続く滋賀」をめざし、皆様と共に取り組んでまいりたいと考えております。さらに、昨年から動き出した「健康しが」の取組みについても、さらに加速させてまいります。

「健康しが」には、「活力」、「持続可能性」、「自分らしさ」、「支え合い」という4つの思いを込めています。来るべき人口減少・超高齢化社会において、一人ひとりの生老死にしっかりと寄り添い、誰もが生涯を通じ、様々なつながりの中で居場所や活躍できる場を持ち、自分らしく、こころもからだも健やかに生活を送ることができる社会を築いていきたいと考えています。新老人「滋賀の会」の皆様におかれましては、生涯現役を实践しておられるアクティブ・シニア（元気高齢者）として、日々活発に交流し、活躍いただいているところですが、100歳を超えても生涯現役で健康長寿を实践されてきた日野原先生に学ぶところは多いと考えており、このような講演会を通じて、知識と交流を深め、「健康しが」の牽引役としての役割を担っていただけることに、大いに期待を寄せております。県としても、新しい豊かさを実感できる持続可能な共生社会の実現に向けて、新老人「滋賀の会」の皆様とも手を携えながら、取組を進めて参りますので、引き続きご理解ご協力をお願い申し上げます。貴会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝を祈念いたします。みんなで一緒に、楽しく、がんばりましょう。

「人生100年時代」を元気に生き抜くには「社会活動参加」を！！

日野原重明記念新老人「滋賀の会」代表 嘉田由紀子



日野原先生の教えの中で繰り返しくりかえし言われることに「創めること」というモットーがあります。

いくつになっても新しいことを「はじめること」で元気を維持、回復しよう、という呼びかけです。滋賀県男性がなぜ長寿日本一になったのか、県として47都道府県データを分析して中間報告を出しました。その結果については今回の講演会で角野滋賀県理事が講演して下さる予定です。医療サービスの充実や減塩・禁煙などの生活習慣改善に加えて注目されたのが、「長寿化と社会活動参加」との関係です。社会活動の中では、「スポーツ」「ボランティア」「学習・自己啓発」が重要なこともわかりました。滋賀県男性を見ると、スポーツをする人の割合は男性で全国2位、ボランティア活動は全国2位、学習・自己啓発する人は5位です。女性は少し出遅れています。滋賀県の農村部はもともと水田耕作のための水利共同体の伝統がありコミュニティ活動は活発です。都市部も持ち家率が高くスクールサポーターなどの地域ボランティア活動は盛んです。これからの問題としては、マンション郡住民が増え、都市中心部での社会活動参加の促進が課題となってくるでしょう。地域個性を見据えながら、滋賀県全体として、未来に向けて人生100年時代にどう備えていくのか、今から官民協力をしての施策構築が必要です。その際、基本的哲学としての日野原イズムの重要性を学べる場としての「滋賀の会」の活動を進めていけたら願っています。

皆さまの支援、ご協力をお願い申し上げます。

講演会様子を紹介させていただきます。



絵を描く日野原先生をご紹介 日野原真紀様



献花：「医療福祉・在宅看取りの地域創造会議」

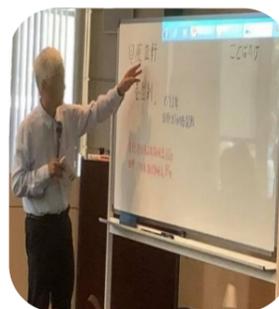


「最後まで自分らしく生きる 義父と過ごして」日野原 真紀様



「何故滋賀は長寿日本一になったのか その2」

角野 文彦様



「自然と人と健康」松下 唯夫様



フィナーレ 日野原重明作詞、作曲「新老人の歌」と「琵琶湖周航の歌」を合唱しました。

多くの感想が寄せられましたので一部ご紹介をさせていただきます。

嘉田由紀子先生 大阪支部の三木です。

先日のフォーラムでは御世話になりました。13日は、「滋賀の会」主催のフォーラムを楽しませていただきました。台風の影響で御準備等も大変だったと思いますが良い思い出となりました。十分なお話もできず、帰りの送迎バスに飛び乗ったような状況で、御礼も述べる事ができませんでした。申し訳ございません。

大阪支部は、活性化のため「大阪・関西万博」に協賛して何か出来ないかと模索しているところです。全国組織の連絡会の活動でも御協力をお願いすると思いますが、今後とも宜しく御願致します。

この秋、北小松、湖邸滋びわこクラブ内に、ご自宅の書斎より愛用の備品衣類、蔵書など先生のありし日を偲ぶ品々が届き日野原重明文庫として再現されました。琵琶湖をこよなく愛された先生のお言葉を思い出しながら遺品を拝見しました。琵琶湖を望むロビーには蔵書4,500点が整然と並んでます。先生の愛読書、手の温もりを感じ乍ら、ページをめくる至福のひと時を楽しみたいと思います。

中村洋子